

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101447		
法人名	医療法人 清和会		
事業所名	グループホームかがやき		
所在地	徳島県徳島市上八万町中山83番地1		
自己評価作成日	令和5年1月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和5年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境豊かな場所で、季節感を味わいながら、利用者が安心して日々の生活を送れるよう支援している。特に、家庭の暖かさが感じられ、くつろいだ時間が過ごせる関係の構築に努めている。各専門科への受診援助やリハビリテーションの通院援助を通じた健康管理に加え、緊急時の協力体制の整備により利用者や家族の安心が得られている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周囲に森林の広がる自然豊かな環境のなかに位置している。共用空間は、室内にいても森林の木々や季節の移り変わりを感じ、四季の景色を楽しむことができる居心地の良い空間となっている。事業所では、“地域の中の住民として交流を大切にしみある生活のお手伝いをさせていただきます”という理念を掲げている。日ごろの生活のなかで、利用者の表情の変化や仕草等から思いや意向を把握したり、家族等から情報を得たりして、利用者一人ひとりの状況や個性に応じて、寄りそった支援に取り組んでいる。同一法人が運営する協力医療機関との医療体制を整備し、夜間職員の待機制度を導入して緊急時の迅速な対応に努めるなど、利用者や家族等の安心に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームかがやき 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時に全員で理念及び清和会三訓とスローガンを読み上げ、意識付けをしている。	事業所は、設立時に作成した理念を掲げている。毎日、申し送りの際に理念を唱和し、共有化を図っている。毎年、全職員で話しあい、理念に基づいたスローガンを作成し、理念の実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	最近では、コロナ禍で地域とのつながりがほとんどなく、今年は八万文化祭に作品を展示したほかは特に交流はしていない。	事業所では、感染症(コロナ等)の流行下において、ダイレクトメール等を活用し、地域の情報を把握している。把握した情報をもとに、地域の文化祭へ利用者と職員で作成した作品を出展するなど、交流に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はコロナ禍で特にこれといって地域の人々に実践していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を参考にして、今後のサービス向上に取り組んでいる。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行下においては、事業所の活動や行事等の報告を書面にまとめ、各委員に報告しているが、各委員から意見や提案を得て、双方向的な会議となるまでには至っていない。	今後は、書面会議においても、意見や提案を得ることができるよう各委員に働きかけることが望まれる。双方向的な会議を行うことで、サービスの質の向上に活かすとともに、地域の理解・協力を得る機会となることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、何か課題があると、その都度相談し、市の担当者より助言を頂いている。	管理者は、市の担当窓口を訪問し、事業所の運営や活動状況を報告している。訪問の際には、助言を得るなど、協力関係を築いている。疑問点や相談が必要な事例には、電話等も活用しつつ、解決に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束適正委員会を開催して、現状を話し合い、今後の対応について検討している。	事業所は、身体拘束適正委員会を設置し、定期的に研修を開催するなどして、身体拘束をしないケアに向けて取り組んでいる。事業所のエレベーターは自由に利用できるが、設備上、ユニットの入り口がオートロックとなっている。	今後は、身体拘束適正委員会や研修等で、玄関の施錠についても協議・検討することが望まれる。必要に応じて、開錠時間を設けるなど、さらに抑圧感のない暮らしの支援に繋がることに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、勉強会で管理者と職員が共に学び、早期に発見し防止に努めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームかがやき 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、成年後見制度等を勉強会で学び、活用できるようにしている。現在、入居者様の2名に保佐人が就いている状況です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、その都度家族等に丁寧に説明している。また、料金改定時には事前にお知らせし、同意書ももらっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の家族等2名に運営推進会議のメンバーになって意見を頂き、サービスの質の向上につなげています。	事業所では、面会で家族等が来訪した際に、意見や要望を聞いている。毎月、利用者の様子を伝えるメッセージと写真を郵送したり、電話連絡をしたりして、意見が出やすいよう働きかけている。出された意見等は、職員間で話しあい、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、ミーティングをして職員の意見を聞き、運営に関して活かしている。	管理者は、日ごろの支援のなかで、職員の意見や提案を聞いている。毎日の申し送りやミーティングの際にも意見を聞く機会を設けている。希望に応じて、個別に話を聞くこともある。週1回、協力医療機関の看護師長に相談できる機会も設定している。出された意見等は、代表者に伝えるなどして、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に、就業規則を見直し、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修はもとより、外部の研修に積極的に参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会に加盟して、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームかがやき 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時期には、本人の気持ちを受け止め、要望等に耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の方の声に耳を傾け、不安を解消し出来るだけ要望にお応えするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望等にはその時々で、出来るだけ対応し、他のサービスが必要な時には提案をすようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日のレクリエーションや、季節の行事等で本人と職員が共に過ごし共感している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族等の方と連絡を取り、状況を報告し本人の支援につなげている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、コロナ禍で面会も制限されていて、外出する機会もあまりない。	事業所では、感染症対策を講じ、玄関の窓越しに話ができるよう支援している。また、利用者一人ひとりの状態に応じて、携帯電話を活用するなど、馴染みの人との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションの時など、利用者全員に参加していただき共に楽しめるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームかがやき 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、その後の相談に応じるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの際、最初に本人の意向を確認するようにしている。	職員は、日ごろの利用者とかかわりのなかで、表情の変化や仕草等から思いや意向の把握に努めている。家族等から情報を得ることもある。把握した情報は、申し送り等で共有し、利用者一人ひとりの状況や個性に応じた支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や家族の方より、今までの生活歴や暮らし方を聞き取り、支援につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりについて、本人の状況を総合的に把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントの後に、チームで担当者会議を開催して意見を出し合っている。	事業所では、担当職員が中心となり、利用者の意向を把握している。把握した情報をもとに、担当者会議で意見を出しあい、介護計画を作成している。実践状況等は、担当職員がチェックし、現状に即した計画となるよう見直しに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、介護記録に記入して、特に気になったことは、申し送り時に他の職員と情報を共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在、コロナ禍で買い物に行けないので毎週各自に注文を取り、取り寄せている。その他、利用者のその時々ニーズに応じて出来る限り対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームかがやき 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のコミュニティセンターの人が文化祭の案内をしてくれ、今年は八万文化祭に作品を展示することが出来ました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の納得の上、協力医療機関を受診し、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所では、入居時の段階で、利用者と家族等の希望するかかりつけ医を確認している。協力医療機関から、月1回の定期受診や毎週の訪問看護がある。また、協力医療機関の職員が夜間待機を行うなど、適切な医療受診に向けて連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に状態変化があると、直ぐに協力医療機関に連絡し、指示を受けて適切な受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院支援に関しては、協力医療機関と連携して、スムーズに退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期医療に関しては、契約時に意向を確認し、家族や医療関係者と連携して支援するようにしている。	事業所では、契約時の段階で、重度化や終末期における事業所の方針について、利用者や家族等に説明し、同意を得ている。利用者の心身状況の変化に応じて、家族の意向を確認し、医療関係者や職員間で話しあい、方針を共有しつつ、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時に適切な対応が出来る様に、応急手当等の研修を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、隣接する施設にも協力してもらっている。	事業所では、同一法人の運営する併設の他サービス施設の職員の協力を得て、避難訓練を行っている。避難経路を確認したり、シーツを使った避難を行ったりして、実践的に取り組んでいるが、消防署の協力を得ることができていない。	今後は、訓練時に地域の消防署の協力を得ることができるよう働きかけられたい。訓練について消防署から助言を得ることで、さらなる利用者の安全確保に繋がることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームかがやき 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員でプライバシーや尊厳と権利に関して、研修を行い確認し合っている。	職員は、利用者一人ひとりの個性を尊重した支援に努めている。排泄の失敗時には、尊厳を傷つけることのないよう配慮している。事業所は、プライバシー確保等に関する研修を開催し、サービスの質の向上に活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の中に嚙啞の方がいて、言葉では意思表示出来ないが、全身の反応を見て対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切にし、その人らしい暮らしが出来る様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者本人の意向を確認し、気に入った髪型や服装ができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士の指導のもとに、一人ひとりの状態に応じた食事形態(キザミ、ミキサー食等)をとり、一緒に食事をしている。	事業所では、利用者一人ひとりの心身状況に応じて、食事の形態を変更している。行事食で寿司を注文することもある。毎月、茶話会を開き、利用者の希望を聞き、おやつづくりを行っている。また、台拭きや片付け等、できることで利用者に参加してもらうなど、食事を楽しむことができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量は毎日記録し、一日に必要な食事や水分が取れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にうがいや歯みがき等の口腔ケアをして、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームかがやき 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は、出来るだけトイレで用を足していたり、おむつは減らしている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、個別の状況に応じた支援に努めている。日中は、車イスの利用者も職員2人で介助するなどして、排泄の自立に向けた支援を実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の人に対しては、なるべく自然排便を促すよう原因を探り日々の暮らしで個々に予防・対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりの希望を大切に、無理強いをせずに、意向を優先し入浴を楽しめるよう支援している。	事業所では、少なくとも週3回の入浴ができるよう支援している。浴槽の出入りが困難な利用者には、安心して湯船につかることができるよう職員2人で支援している。シャワーキャリーを活用し、一人ひとりに応じた支援に努めている。季節に応じて、敷地内の紅葉の葉を浴槽に入れるなど、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが必要な休息や睡眠が取れ、各々の自然なリズムが生まれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、受診の際に医師等に日常の記録を報告して症状の変化を確認し、治療や服薬調整に活かしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしが張り合いのある暮らしになるよう、一人ひとりに合った役割や楽しみ、気分転換をし、自宅にいる時と同じように過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ禍で外出する事が出来ない状況です。天気の良い日には、外気浴で玄関の前のベンチに行くようにしています。	事業所では、気候の良い日に玄関先で花見をしたり、外気浴をしたりして、気分転換する機会を設けている。年明けには、2日に分けて、利用者全員が地域の神社に出かけるなど、工夫しつつ、外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームかがやき 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては、通帳をここで預かるようにして、必要な金額はなるべく口座より引落しするようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者がこちらから、電話することはめったになく、家族等から電話があれば、プライバシーに配慮し取次ぎを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁等に季節感のある貼り絵等を飾り付け居心地よくし、利用者一人ひとりの価値観を大切にしたい支援をしている。	共用空間は、窓辺から木漏れ日が差し込み、明るい。室内でも周辺の景色から季節の移り変わりを感じることができる。壁面には、利用者と職員で作成した季節の作品等を飾り、温かい雰囲気づくりに努めている。職員は、掃除や空調調整、換気等に配慮し、居心地のいい共用空間となるよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には、テーブルやソファなどを配置し、気の合った利用者同士が、2、3人で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、居心地よく過ごせるように、馴染みの物や、好みの物を置きその人らしく暮らせるようにしている。	居室には、入居時に利用者や家族等と相談し、馴染みの家具や思い出の調度品、家族の写真等を持ち込んでもらっている。利用者が自分らしく安心して過ごすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険防止や安全かつ自立した生活が送れるよう環境面で工夫し、不安や混乱を招かないようにしている。		